

令和3年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人しまね文化振興財団	
施 設 名	島根県芸術文化センター 島根県立いわみ芸術劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 ( 総 額 )	11,707	(千円)
	公 演 事 業	5,153 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,638 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	3,916 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	しまね演劇フェスティバル 2021 ※	2021年7月22日(基礎講座)、9月6日(準備会)9月19日(本公演)	【団体・演目】 劇団 8ch「椅子語り—写真館の椅子—」/石見国くにびき 18座「戦後ゼロ年ここから/ダンスカンパニースカーチエ「色とりどりの花～百合の咲くころ～」/劇団 Y プロジェクト「夕映えの職分」/劇団ドリームカンパニー「スマイル」 審査員：太宰久夫、大塚恵美子	目標値	350
		小ホール、多目的ギャラリー		実績値	320 (配信計30名)
2	合唱の町・益田～グラントワ・カンタートをつなぐ歌のコンサート ※	2021年11月3日(水・祝)	指揮：キハラ良尚、ゲスト指揮：栗山文昭、ピアノ：斎木ユリ、合唱：東京混声合唱団、共演：グラントワ合唱団 演目：箱根八里、コンダリラ、「唱歌の四季」より夕焼小焼ほか、ジグザグな屋根の下で(共演)、翼をください 他	目標値	400
		大ホール		実績値	318
3	MUSEUM×THEATER ミュージア	①2021年8月21日～22日②2021年10月2日	【出演者】 ①ミュージア Vol.15「活動弁士と素晴らしい話芸の世界」8/21 坂本頼光(活動弁士)・鈴木広志(サククス)・大口俊輔(ピアノ)・小林武文(パーカッション)8/22 坂本頼光(活動弁士)・桂吉坊(落語)・神田春陽(講談) ②ミュージア Vol.16「伊藤志宏のピアノコンサート」伊藤志宏	目標値	400
		① 小ホール ② 展示室C		実績値	160
4	しまね伝統芸能祭 2021 ※	2021年9月23日	【出演者・演目】 益田東高等学校神楽部「塩祓」 都治神楽社中「恵比須」 安来節保存会「安来節・どじょうすくい」 益田東高等学校神楽部「岩戸」	目標値	350
		大ホール		実績値	100

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	いわみ舞台塾 ※	2021年5月15日、10月3日、11月7日、2022年1月9日ほか※	○各講師 合唱／栗山文昭、山崎勝、廣兼伸俊、横山琢哉、信長貴富、地元音楽スタッフ(学校教諭等) 邦楽／川村泰山、川村葵山、熊谷雅楽映弦楽／加藤幹雄 演劇／坂井陽介、真咲郁 ほか ※	目標値	1,000
		大ホール、小ホール、江津市総合市民センター、益田市人権センター、多目的ギャラリーほか		実績値	1,730
2	鑑賞者育成講座 グラントワアートサロン ※	① 2021年2月23日(水・祝)	① 浪曲講座～聴いて、知って、ちょっと唸(うな)ってみよう～ 出演：玉川奈々福(浪曲師)、沢村まみ(曲師) ② ジャズ～ジャズの聞き方、楽しみ方 出演：藤井政美(サクソ)、山本優一郎(ベース)	目標値	75
		② 2021年3月20日(日)		実績値	51
3	益田糸操り人形後継者総合養成事業 ※	2022年1月9日、3月27日 ※	【指導講師】 ・義太夫講習：竹本越孝 ・三味線：鶴澤駒治  【コーディネーター】 公益財団法人現代人形劇センター	目標値	150
		市民学習センター、安田公民館		実績値	30 ※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和3年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	グラントワ いわみステージ ※	①2022年1月22・23日 (中止)、 ②2022年3月12日	①山口とも (中止) ②今福座	目標値	330
		①匹見タウンホール、 三隅中央会館 (中止)、 ②大森町並み交流センター		実績値	30
2	グラントワ芸術家の派遣事業 (アウトリーチ) ※	① 2022年1月21日 (中止) ② 2022年1月24日 (中止) ③ 2022年3月14日 ④ 2022年3月19日 (中止)	①②山口とも (中止) ③出演：東京アーティストツ合奏団 演目：トロイメライ、展覧会の絵よりプロムナード、オーバーザレインボーほか ④須藤静香 (中止)	目標値	200
		①グラントワスタジオ1 ②グラントワ多目的ギャラリー ③松ヶ丘病院 ④吉賀町立朝倉公民館		実績値	55
3	益田糸操り人形公演 ※	○グラントワ公演 6月27日 (中止) 10月3日 ○出前公演 2021年7月15日、10月22日 (ほか5回は中止)	出演：益田糸操り人形保持者会 演目：寿三番叟、傾城阿波の鳴門 巡礼歌の段、絵本太閤記 尼崎の段、貧乏神、山本一流獅子の一曲	目標値	400 (グラントワ公演100名×2回 / 出前公演合計200名)
		○グラントワ公演 小ホール ○出前公演 真砂小学校、市民学習センター		実績値	125 (グラントワ公演75×1回、出前公演50×1回)

4	いつでもどこでも音楽祭 ※	2021年7月1日、8月 8日 ほか	出演；石見音楽文化振興会（オーボエ、クラリネット、ピアノ）、須藤静香（ソプラノ）、土江いづみ（ソプラノ）、勝部奈緒（ソプラノ）、渡部恵深（ピアノ）、永田正彰（トロンボーン）、福田悠子（ヴァイオリン）ほか	目標値	480
		大ホールホワイエ、中庭、美術館ロビー、スタジオ1		実績値	251
5	島根邦楽集団 定期演奏会 ※	本番<中止>：3月6日、事前指導：1月15・16日、2月19・20日<2月中止>	出演予定者：島根邦楽集団、川村泰山（指揮）、川村葵山（尺八） 予定演目：絹の道、信楽狸、五段砧、瑞光、パプリカ他	目標値	100
		スタジオ1他		実績値	中止
6	グラントワ弦楽合奏団 定期演奏会 ※	3月定期演奏会<中止> ・10/17 オータムコンサート ・12/25 クリスマスコンサート ・11/28、3/13 弦楽セミナー	出演：グラントワ弦楽合奏団 講師：加藤幹雄（指揮者/指導者） 東京アーティスト合奏団数名（弦楽セミナー）  オータムコンサート、クリスマスコンサート 演目：ラデツキー行進曲、勇気100%メヌエット、宇宙戦艦ヤマト、ホールニューワールドほか	目標値	300
		・定期演奏会石央文化ホール<中止> ・オータムコンサート 悠邑ふるさと会館 ・クリスマスコンサート 海遊館 アクアス ・弦楽セミナー 11/28 スタジオ1他 3/13 益田公民館		実績値	220

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>島根県西部にあたる石見地域に位置する島根県芸術文化センター「グラントワ」は、人口減少や少子高齢化が進み、全国でも有数の衰退的先進地域となっている。そのような課題を抱える地域における唯一の県立劇場として、多面的に文化芸術の熱気を生み出し、地域を盛り上げる取り組みをミッションの核にしながら、グラントワならではの事業展開によってより多くの住民が文化芸術に触れる機会を創出した。また、前年度に引き続き新型コロナウイルスの影響を受け、中止・延期となる事業が相次いだ。コロナ禍で実践する中で得た感染対策ノウハウやオンライン併用などの工夫により、計画に沿いながら事業展開を行うことができた。</p>
<p><b>ミッション1／鑑賞機会の提供と鑑賞者・実演者・愛好家の育成</b></p>
<p>鑑賞機会の提供として、中山間地域における公演（普及啓発事業1）や、館内での親しみやすく入口体験的な位置づけの無料コンサート（普及啓発事業4）、美術館と劇場という複合施設を活かした専門性の高い公演（普及啓発事業3）によって、地域住民の興味関心を引き出す鑑賞機会を創出した。</p> <p>実演者の育成においては、人材養成事業1を中心として若年層へ積極的アプローチを図り、新型コロナウイルスの影響で前年度は中止となった合唱事業（いわみ合唱塾ネクスト・クワイア）の再開や、演劇ワークショップ事業では中高生の新規参加者の増加など次世代を担う層の育成に取り組むことができた。</p> <p>また、公演事業4・普及啓発事業3では、コロナ禍で中止の相次ぐ祭りや行事に代わって伝統芸能分野の地元実演家の発表の場をつくり、鑑賞のニーズと発表の支援を同時に行う公演として開催した。</p>
<p><b>ミッション2／交流の促進</b></p>
<p>公演事業2において、プロ合唱団である東京混声合唱団によるフランチャイズ団体のグラントワ合唱団へのボイストレーニングやリハーサル見学、共演ステージを通じた交流を行い、地元アマチュア団体の意欲向上と活動活性化を図った。また、公演事業1では東西に長い島根県において県内演劇団体が集まって公演を行うことで、普段接点の少ない団体同士の東西交流の場を創出した。人材養成事業1にて実施した「いわみ合唱塾ネクスト・クワイア」では、合唱界を代表する作曲家である信長貴富氏による委嘱曲の初演を松江市の島根県民会館で行い、当劇場で生まれた楽曲の発信を行った。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>前年度に引き続き大規模公演の中止・延期が続く中、当劇場の企画制作事業においても制限される事態が多数発生した。そのような状況下でも前年度の実施経験を踏襲し、「分野・内容的にリモートが不向き」と判断した事業は感染対策をとって可能な限りリアルでの実施を行いつつ、オンライン配信等が有効であるものは積極的に利用するなど、本助成を活用しながらより効果的な文化活動を展開することができた。</p> <p>特に公演事業1ではオンライン配信、公演事業4では事業終了後に公演映像配信を行うなど、有観客と映像を併用することで、感染リスクを低減させると同時に広域への発信に取り組み、県内外問わずジャンル関係者の文化活動へのモチベーション向上に寄与することができた。また、感染状況が比較的落ち着いた時期には、これまでの助成に支えられた幅広い事業実績に基づき、県外アーティストによる講座や公演も積極的に取り組んでいる。</p> <p>このように、少子高齢化等の地域課題と同時に、コロナ禍という厳しい地方の公共劇場の現状においても文化芸術体験の質を担保できたことは、改めて公的支援及び劇場制作機能の蓄積の重要性を感じる場所である。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### 1 目標に対する達成状況

##### 《公演事業》

【目標：感染リスク抑制のため県内実演家と協働した事業展開。ネットワークを活かしたフェスティバル事業の開催】

事業1、4において、様々なイベントや祭りの中止が続く中、出演を県内の団体に限り、かつライブ配信等映像も併用することで感染リスクを下げながら開催することで各団体の活動機会を創出した。県内広域から参加団体が集った事業1では、事前の全体打ち合わせを重ねることで交流が生まれ、演劇ジャンルのネットワーク形成促進に繋がった。

##### 《人材養成事業》

【目標：公演事業・普及啓発事業と連動し、新規参加者を獲得する。地域伝統芸能「益田糸操り人形」の継承支援。コロナ禍による文化芸術活動の衰退を防ぐため、文化接触機会としての鑑賞者育成講座を開催する】

コロナ禍により、参加者に高齢者の多い事業については活動の一時停止や延期が相次いだ。その中で前年度リモートでの開催となった事業3は感染対策を講じて2年ぶりとなる直接指導を行った。モニター上ではやりとりしづらい三味線・義太夫の細やかな表現を学ぶことができ、技術の継承と育成において効果的な実施となった。

##### 《普及啓発事業》

【目標：劇場へのアクセスが難しい層にむけたアウトリーチ事業や地域への普及啓発型公演の実施。フランチャイズ団体の演奏会開催と、音楽鑑賞機会として無料コンサート事業の実施】

コロナ禍により中止となったものも多々あるが、高齢化率40%を越え、集落維持に取り組む地域施設での公演開催（事業1）や、アクセシビリティの視点から劇場鑑賞が困難な精神科病院への弦楽アウトリーチ（事業2）、市街地まで15km以上ある山間地の小学生への益田糸操り人形出前公演（事業3）を実施するなど、地域課題やニーズに応える多様なプログラムを展開した。

#### 2 指標に対する達成状況 ※主たるものを抜粋

##### 《公演事業》

○満足度の向上 「大変満足」「満足」の割合が85%以上 / 実績：87.8%

○「石見地域以外」からの参加・来場者20%以上 / 実績：25.1%

##### 《人材養成事業》

○事業1への若年層参加者数の向上 6歳から20歳の参加者 実質250名以上 / 実績461名

○新規参加者20%以上 / 実績26%

##### 《普及啓発事業》

○目標：（劇場内で実施する事業）新規鑑賞者が35%以上 / 実績：36.5%

○目標：事業の実施にあたり、直接的に協力を得る関係機関数20団体（関係機関との連携による波及効果向上）  
実績：27団体（中止事業のうち途中まで協力体制をもって進めていた関係機関も含む）

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 《公演事業》事業期間

事業名	要望書	実績	変更点
しまね演劇フェスティバル 2021	セミナー：6月 本公演：9月	事前講座：7月22日/9月6日 本公演：9月19日	参加団体の交流を図るため、講座と準備会を開催
グラントワ・カンタートをつなぐ歌のコンサート	公演：10月（前日に交流企画を実施）	交流：11月2日 公演：11月3日	工事休館前の最後の公演事業として11月へ変更
MUSEUM×THEATER ミューシア	① 8月 ② 1月	① 8月21・22日 ② 10月2日	①内容の充実を図り、2日にわたり開催 ②出演者都合により変更
しまね伝統芸能祭 2021	8月	9月23日	調整上9月へ変更

#### 《人材養成事業》事業期間

事業名	要望書	実績	変更点
いわみ舞台塾	通年（全53回）	通年（全81回）	追加講座等により28回増
グラントワアートサロン	7月/11月/2月（全3回）	2月/3月（全2回）	感染症の影響で1回分減
益田糸操り人形後継者総合養成	5～3月（全7回）	①②1月9日/③④3月27日（全4回）	講師体調不良のため3回分減

#### 《普及啓発事業》事業期間

事業名	要望書	実績	変更点
いわみステージ	11月/12月/1月（2～3回）	3月12日（全1回）	感染症の影響で2回分減
芸術家の派遣事業	5～3月（4回程度）	3月14日（全1回）	感染症の影響で3回分減
益田糸操り人形公演	定演：6月/10月（全2回） 出前：通年（6回程度）	定演：10月3日（全1回） 出前：7月15日/10月22日（全2回）	感染症の影響で定演6月分、出前5回分減
いつでもどこでも音楽祭	通年（6回程度）	7月17日/8月8日/9月12日/12月12日/3月13日（全5回）	感染症の影響で1回分減
島根邦楽集団定演	3月	中止	感染症の影響で中止
弦楽合奏団定演	演奏会：年度内2回 セミナー：年度内2回	演奏会：10月17日/12月25日 セミナー：11月28日/3月13日	

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### 《公演事業》収益率／感染症の影響で入場料収入が計画時より減、もしくは入場無料開催へ変更したため収益減

- |                           |           |                         |             |
|---------------------------|-----------|-------------------------|-------------|
| 1. しまね演劇フェスティバル 2021      | 4.4%→4%   | 3. MUSEUM×THEATER ミューシア | 30.5%→11.8% |
| 2. グラントワ・カンタートをつなぐ歌のコンサート | 26.9%→16% | 4. しまね伝統芸能 2021         | 9.7%→4.7%   |

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

#### 【劇場の機能】

当劇場は、島根県西部唯一の県立劇場であることから、芸術の質を担保した事業展開、及び県西部広域における文化振興と支援が機能として求められる。その上で、「美術館との複合施設」「県立施設として圏域施設や活動団体、教育・福祉、地域アーティストと連携し、地域に根差した文化振興を展開する」という館の特色を活かし、専門性と地域連携を軸として事業に取り組んでいる。特に創造的、独創的と考える事業例は以下のとおりである。

#### ○公演事業1 しまね演劇フェスティバル 2021

島根県西部における演劇団体、高校演劇部の少なさの現状を鑑み、平成29・30年に島根県東部にて当財団が開催した演劇フェスティバル事業を当劇場にて初開催した。これまで人材養成事業1にて継続的に行っていた「演劇好きの塾」参加者など地域の愛好家のニーズを把握しながら企画を進めることで、県西部より3団体の出演があるなど、地域活動と連携した当該ジャンルの活性化を図った。また、事前に全団体を集めての舞台技術講座の実施や開催準備会を開き、団体の活動活性化へ繋げる仕組みも企画に盛り込むことで、これまで劇場に蓄積された企画制作力を活かした事業展開を行った。尚、これまで人材養成事業にて実施してきた「演劇好きの塾」講師を務める太宰久夫氏（玉川大学名誉教授）等を専門審査員として招聘し、人材養成事業から公演事業へと発展させた取り組みとすることができた。

#### ○公演事業3 MUSEUM×THEATER ミューシア

館の資源・特徴として全国でも数少ない劇場と美術館を併設する複合施設という点がある。その特性を生かし、美術館と劇場とのコラボレーション企画としてコンテンポラリーアートや実験的かつ独自性の高い取り組みとして本事業を展開している。

本年度は、島根県益田市出身で「話芸の神様」と呼ばれた元祖マルチタレント、徳川無声の没後50年に際し、多角的に話芸の世界に迫ることをテーマとして開催。現在一線で活躍中の様々な話芸の達人を集める公演とトークを開催することで、改めて「話芸」という芸能の魅力にスポットをあてた。また、美術館コレクション展とタイアップし、気鋭のピアニストによる展示室でのコンサートも開催した。ホールとは異なる独特の空間や響きに酔いしれ、グラントワの建築の魅力と芸術鑑賞の場の可能性を新たに発見する機会を創出できた。

#### ○人材養成事業1 いわみ合唱塾ネクスト・クワイア（いわみ舞台塾事業内）

本事業では周辺5市町の学校教諭が指導スタッフとして参加するなど、当劇場の機能のひとつとして掲げる教育分野との連携事業として取り組んだ。その結果、合唱部のない中山間地域の小規模中学校から生徒・教員の参加があるなど事業の広がりや波及効果を生んだ。また、歌いたいという気持ちで集まる子どもたちに対して第一線で活躍する作曲家の信長貴富氏へ曲を委嘱し、島根県民会館（松江市）にて発表。「自分たちのために作られた曲を初演する」という特別な体験を参加者の中高生に提供できたことは、教育と連携し、地域に根差した創造的文化活動として大きな成果となっている。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響により事業ごとに中止や延期の判断を迫られる状況であった。しかしながら、これまで培った運営ノウハウと、オンラインの併用や人数制限などの工夫を行うことで、事業実施に向けて可能な限り臨機応変な対応を行い、コロナ禍においても地域文化芸術活動の活性化に努めた。

### ○普及啓発事業 1

中山間地域における文化への接触機会として県内在住の和太鼓奏者である今福優氏率いる今福座による公演を開催した。開催地区は高齢化率が40%を超え、最寄りの公共ホールまで10km以上、公共交通機関の運行本数も限られるため、地域施設を活用した本事業により文化芸術への接触機会の提供を行うことができた。観客アンケートでは「久しぶりの生演奏を聴くことができ満足」「コロナ禍で開催できないかと思っていたところ、開催していただき希望と勇気もらった。」などの感想が聞かれ、満足度も96%（残り4%は無回答）と好評で、文化による地域活性化へ繋がる事業となった。

### ○普及啓発事業 2

アウトリーチ事業として精神科病院にて弦楽コンサートを開催。コロナ禍以降入院患者は外出も満足にできず、実演芸術の鑑賞機会がほとんどない状況であったが、出演者のPCR検査実施など万全の準備を行うことで開催することができた。実施にあたっては、事前に病院との打ち合わせを重ね、信頼関係を築いた上での開催となり、文化芸術の届きにくい層への積極的なアプローチとして両者にとって今後の連携に期待感の生まれる取り組みとなった。

### ○普及啓発事業 4

鑑賞者のすそ野拡大によって地域の実演芸術の振興を目指す本事業は、その趣旨に則り年齢制限を行わず、無料で親しみやすいコンサートとして開催することにより小学生以下～30代の観客を20%以上とすることができ、今後の鑑賞者育成に繋がる事業となっている。また、出演者も県内の音楽普及活動に取り組む団体など地元演奏家を積極的に起用し、新型コロナウイルスの感染リスクを下げることで、周辺住民の警戒感をほぐし、公演離れや劇場離れ傾向に歯止めをかけ、演奏家の発表の場創出と同時に文化芸術分野全体への関心を徐々に回復させていくことにもつながった。

### ○人材養成事業 1 いわみ合唱塾ネクスト・クワイア（いわみ舞台塾事業内）

本事業では、少子化や教員の減少を理由に部活動が縮小されるなか、地元中高生が学校の枠を超え、合唱を通じて交流しながら地方から合唱の未来を考える事業として、平成28年度より継続して取り組んでいる。本劇場、地元教員・音楽指導者、プロ合唱指導者が連携し、子どもたちの歌う楽しさを追求する本事業は、専門誌「教育音楽 中学・高校版」（音楽之友社／2022年3月号）の巻頭特集に取り上げられるなど全国的にも注目度が高く、参加者・関係者だけでなく広く合唱ジャンルへの波及効果が生まれた

### ○（バリアフリー・多言語対応）

普及啓発事業3にて地域伝統芸能である益田系操り人形の登場人物の相関図を作成。古語で理解しづらい各演目の相関図を作成することで、初めて見る方だけでなく、聴覚障がい者や難聴者、高齢者を中心として幅広い層にとって認知度向上と理解促進のツールとすることができた。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

本劇場が島根県西部の芸術文化の拠点として持続的に活動するため、以下のような組織体制、人事戦略をもって事業運営を行っている。

#### (1) 組織・人事・人材

○島根県立いわみ芸術劇場は、「総務広報課」「舞台技術振興課」「文化事業課」の3課を設置し、正規職員、準職員（無期契約）、契約職員（有期契約）の3つの雇用形態で32名が在籍している。島根県民会館（松江市）などの当財団が指定管理者として管理運営する施設間において、定期的な人事異動を行い、文化事業や舞台技術等のノウハウや県内ネットワークの共有、人材育成を図っている。

○ボランティア組織：グラントワボランティア会（地域住民によるボランティア組織）。公演運営、広報、施設美化など11の部門で構成され、施設運営全般を支えている。令和3年度は62名（延べ90名）が所属し、定期的な研修も行っている。

○グラントワホール友の会：年会費制会員制度／会員数1,052名（2022年5月時点／美術館との共通会員含む）

○研修・視察等：オンラインを中心に、感染症対策、アートマネジメント、舞台技術、社会包摂など、幅広い分野の研修や外部視察に取り組んだ。（訓練を除く全職員が参加した研修3回、その他研修・視察参加延べ36名）

#### 研修・講座抜粋

島根県公立文化施設協議会 実務者研修「ウィズコロナ・アフターコロナの文化事業運営」（オンライン）／バリアフリー研修「触れる3D模型・鑑賞体験講座」／ステージテクニカルアカデミー 2021 島根県舞台芸術セミナー／全公文中四国支部 業務管理研究会／全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会 2022 など

#### (2) 財務

組織財政状況：施設利用料及び入場料等は、コロナ禍以前に比べ落ち込んでいるものの、補助金を獲得することで、借入金もなく流動比率も安定している（令和3年度正味財産合計：1,022,963,801円）。

#### 【外部資金の活用】（令和3年度 組織全体の主要な補助金、委託事業の抜粋） ※本助成事業を除く

文化庁・日本芸術文化振興基金	その他
<ul style="list-style-type: none"><li>・障害者による文化芸術活動推進事業</li><li>・文化芸術による子供育成総合事業（芸術家の派遣事業）</li><li>・アートキャラバン（地域連携型）／「JAPAN YELL project」</li><li>・ARTS for the future!</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・萩・石見空港利用促進事業（島根県）</li></ul>

#### (3) ネットワーク

当劇場は、県の中核をなす公共ホールかつ劇場と美術館が併設する県立施設という当センターの特性を生かし、設置者である島根県と劇場が位置する益田市の各部署との協力・協働体制を基盤に、近隣の自治体や各施設、団体とネットワークを持っている。

○劇場音楽堂等：「劇場、音楽堂等連絡協議会」や県内30施設で構成する「島根県公立文化施設協議会」に加盟

○PDCAに係る協議会等：「島根県芸術文化センター協議会」（文化芸術・教育・報道機関等の有識者で形成する協議会）／「芸術文化とふれあう協議会」（益田市、吉賀町、津和野町、各市町教委、県、当財団で形成する協議会）